
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 平成25年3月期第2四半期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 平成25年3月期第2四半期決算概要
- III. 今後の展開、平成25年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給の要望が高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げるなかで、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 19 年 2 月に光華産業有限公司の子会社として、中国深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。

現在では携帯電話機、スマートフォン、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できるよう生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 組織の効率を追求する。

これからも環境の変化に迅速に対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

◎当期のトピックス

2012 年 6 月 新社長に遠藤幹雄就任

2012 年 9 月 国内工場の再編に伴う、希望退職実施

Ⅱ.平成 25 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要

◎ 損益計算書の概要 (連結)

(単位：百万円)

	11/9 第2四半期(累計)		12/9 第2四半期(累計)		13/3 期《予想》	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	4,078	100.0	5,294	100.0	9,676	100.0
AV 機器関連	(876)	(21.5)	(885)	(16.7)	(1,900)	(19.6)
OA 機器関連	(1,581)	(38.8)	(2,816)	(53.2)	(4,500)	(46.5)
その他電気機器関連	(1,017)	(24.9)	(914)	(17.3)	(1,900)	(19.6)
輸送用機器関連	(301)	(7.4)	(303)	(5.7)	(600)	(6.2)
その他	(301)	(7.4)	(375)	(7.0)	(776)	(8.0)
売上総利益	734	18.0	796	15.0	1,672	17.3
営業利益又は営業損失(△)	△119	△2.9	△19	△0.4	22	0.2
経常利益又は経常損失(△)	△107	△2.6	△39	△0.7	12	0.1
四半期純損失(△)	△147	△3.6	△272	△5.1	△300	△3.1

2012年9月第2四半期の業績に関しましては、前年同期と比べ増収となりましたが、割増退職金、投資有価証券評価損による特別損失の計上等により、遺憾ながら最終赤字の結果となりました。

○ 売上高に関しましては、中国でスマートフォン向けガラスパネル等の受注量が増加し、売上高は5,294百万円（前年同期比129.8%）と増加いたしました。

- ・AV機器関連は、主に中国での受注が増加したものの、東日本大震災や円高の影響により取引先の減産や海外への生産移管が進み、国内の受注は減少したため、売上高885百万円（前年同期比101.0%）と横這いとなりました。
- ・OA機器関連は、スマートフォン向けガラスパネル等の受注が好調に推移し、売上高2,816百万円（前年同期比178.1%）と増加いたしました。
- ・その他電気機器関連においては、大手電機メーカーからの受注量の減少により、売上高914百万円（前年同期比89.9%）と減少いたしました。
- ・輸送用機器関連は、売上高303百万円（前年同期比100.6%）とほぼ横這いに推移いたしました。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連の受注増により、売上高375百万円（前年同期比124.6%）と増加いたしました。

- 売上総利益は、生産効率の向上に努めましたが、得意先からのコストダウン要請及び売上品種構成の変化等により、粗利率が 3.0 ポイント悪化し、796 百万円（前年同期比 108.5%）となりました。
- 営業利益に関しましては、販管費は前年同期比 37 百万円減少したものの、営業損失は 19 百万円（前年同期は 119 百万円の営業損失）となりました。
- 営業外では、円高による為替差損 45 百万円の発生により、経常損失は 39 百万円（前年同期は 107 百万円の経常損失）となりました。
- 特別損失については、希望退職者への割増退職金 137 百万円、保有投資有価証券の株価下落により投資有価証券評価損 51 百万円等を計上したため、最終的な四半期純損失は 272 百万円（前年同期は 147 百万円の四半期純損失）となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	11/9 第 2 四半期末	12/3 期末	12/9 第 2 四半期末
流動資産	(6,834)	(6,883)	(6,869)
現金及び預金	3,094	2,784	1,754
売上債権	2,627	2,845	3,459
棚卸資産	953	1,056	1,462
その他流動資産	158	198	193
固定資産	(4,441)	(4,305)	(4,119)
資産合計	(11,276)	(11,188)	(10,989)
流動負債	(1,976)	(2,309)	(2,500)
買入債務	1,568	1,845	1,992
その他流動負債	408	463	508
固定負債	(567)	(538)	(464)
退職給付引当金	436	421	418
その他固定負債	130	116	46
負債合計	(2,544)	(2,847)	(2,965)
株主資本	(8,955)	(8,626)	(8,311)
評価・換算差額等	(△464)	(△509)	(△507)
少数株主持分	(241)	(223)	(220)
純資産合計	(8,731)	(8,340)	(8,024)
負債・純資産合計	(11,276)	(11,188)	(10,989)

2012年9月第2四半期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当第2四半期末における流動資産の残高は6,869百万円（前期末6,883百万円）となり、13百万円減少いたしました。これはスマートフォン向けガラスパネルの受注増により、棚卸資産は405百万円、受取手形及び売掛金は614百万円増加しましたが、現金及び預金が1,029百万円、減少したこと等によるものであります。
- 当第2四半期末における固定資産の残高は4,119百万円（前期末4,305百万円）となり、185百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産の減価償却費の計上によるものであります。
- 当第2四半期末における負債の残高は2,965百万円（前期末2,847百万円）となり、117百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が146百万円増加したこと等によるものであります。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が40%と高いことが原因であります。
- 当第2四半期末における純資産の合計は8,024百万円（前期末8,340百万円）となり、316百万円減少いたしました。これは、主に四半期純損失の計上及び配当金の支払によるものであります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	11/9 第2四半期 （累計）	12/9 第2四半期 （累計）	12/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	98	△969	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	296	△20	100
財務活動によるキャッシュ・フロー	△47	△45	△56
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	7	△13
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	347	△1,027	34
現金及び現金同等物の期首残高	2,799	2,833	2,799
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	3,146	1,805	2,833

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ1,027百万円減少し、当第2四半期末には1,805百万円となりました。

当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は969百万円（前年同期は98百万円の資金の獲得）となりました。主な増加要因は、仕入債務の増加額121百万円、減価償却費100百万円等であり、主な減少要因は、第2四半期累計期間の税金当調整前四半期純損失269百万円、たな卸資産の増加額400百万円、売上債権の増加額592百万円等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の使用した資金は20百万円（前年同期は296百万円の資金の獲得）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出34百万円等によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は45百万円（前年同期比2百万円減）となりました。これは主に親会社による配当金の支払が43百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		12/9 第2四半期 (累計) 投資額(百万円)
		11/9 第2四半期 (累計)	12/9 第2四半期 (累計)	
方南工場	シール主体	185	167	—
千曲川工場	輪転機主体	147	139	—
川越工場	オフセット主体	274	326	9
大阪工場	シール・シルク主体	219	191	0
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	271	188	0
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	406	522	0
三光プリンティング	シール主体	88	110	—
	合計	1,590	1,643	10

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2012年9月第2四半期の自社工場生産額は、総生産額1,643百万円で売上高に対する生産比率は31.0%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては上期工場全体で10百万円であります。

Ⅲ.今後の展開・平成25年3月期業績予想

◎ 今後の展開

〔短期トレンド〕

当社グループを取り巻く経営環境は、先の東日本大震災と原発事故の影響に加え、円高の進行による得意先メーカーの海外生産移管により、国内受注の減少が引き続き予想されるとともに、中国、マレーシアを中心とする海外拠点においても、受注単価の低下等、厳しい状況で推移するものと思われま

す。このような状況のもと、国内において当面は、一般シール・ラベルの受注減は避けられないと考え、ガラス製品を中心としたタッチパネル関連商品を収益の柱として期待し、積極的な営業展開をいたしました。

この結果、当上期においてはガラス・タッチパネル関連製品の売上増により、対前年同期比1,216百万円の増収となりました。

今後もスマートフォン、デジタルカメラ、タブレットPC等、タッチパネル関係製品を中心に受注増が見込まれますので、この分野へ経営資源を投入し、受注の拡大を図ってまいります。

さらに、得意先メーカーの海外生産移管による一般シール・ラベルの国内受注の減少を、中国、マレーシアの現地法人を中心に、とりこぼしのないよう、積極的な営業展開を行い国内受注の落ち込みをカバーしてまいります。

また、生産面においては、一般シール・ラベルの日本国内での受注減に対応し、将来に向けた強固な収益基盤の確定を目指すため、国内製造工場を再編し、生産効率の向上を図り、適正な企業規模への転換が必要不可欠と判断し、当第2四半期において希望退職者を募集いたしました。

その結果、当第2四半期末において、28名の希望退職者が確定いたしました。また、一部工場の製造ラインを廃止し、統合及び集約を進めていく予定であり、当期中にこの作業を完了する見込であります。

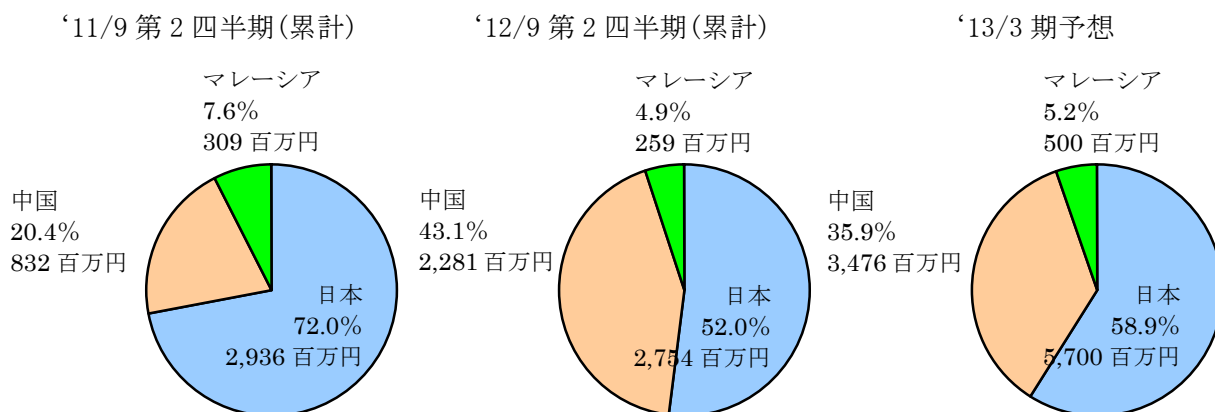
〔長期トレンド〕－長期経営戦略－

当社グループが主力とする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化するとともに、価格低下のスピードが早まっております。また、得意先メーカーの海外生産シフトによる部材の現地調達加速により国内市場の空洞化が進行しております。

このような状況に対応するため、次のような取組みを重点的に行ってまいります。

1. 中国及び海外展開

○地域別売上



中国展開については、これまで日系家電メーカーを中心に一般シール・ラベル製品を中心に事業展開を行ってまいりましたが、最近は、携帯電話、スマートフォン、デジタルカメラ、ゲーム機などの表示窓製品の量産を開始しております。

これらの AV、OA 機器、ゲーム機向け製品は引き続き受注増が見込まれます。

また、拡大する中国市場に対応するため、日系家電メーカーをターゲットとして、2012 年年度末を目処として蘇州に新たな営業所の開設を予定しております。

一方、当社の得意先日系企業の中にも、中国国内での反日感情の高まり、及び人件費をはじめとするコストアップを考慮し、中国以外の新たな生産拠点を模索する動きも出ております。

当社中国事業所としても、人件費の高騰による製造原価の上昇や、得意先移転による受注減は近い将来に予想される状況と判断しております。

そのような情勢から、当社もまた、中国・マレーシアに続く、東南アジア域内での生産拠点を視野に入れて、調査を実施してまいります。

2. タッチパネルビジネスの拡大

- ・携帯電話機の亚克力窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱い品目の多様化と顧客層の拡大を図ってまいります。
- ・技術面においては、切削、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めてまいります。
- ・製品加工自体は個別対応を要するので、得意先ごとの要望にあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図ってまいります。



その一端として、家電業界の中にも亚克力に代わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の融合を1つのテーマとして取り組んだ結果、スマートフォンの前面窓、カーナビ、デジタルカメラ用窓等AV・OA機器にもガラスパネルとして採用されております。

このうちスマートフォン向けパネルについては、当上期に大型案件の受注を獲得し、この結果、前年同期比大幅な増収となりました。

また、スマートフォン等の前面ガラスパネル向け飛散防止を目的とした飛散防止フィルム製品、そして、特許を取得しているUV段差吸収シートの加飾フィルム等、タッチパネル製品向け製品の受注が期待できますので、当面この分野へ経営資源を投入し、受注の拡大を目指してまいります。

3. 国内新市場の開拓

- ・国内需要が見込めるその他の業種のうち、医療、アミューズメント、玩具景品等の分野については、受注方式を維持しつつ、当社独自の企画機能も組み込んで付加価値向上を目指してまいります。

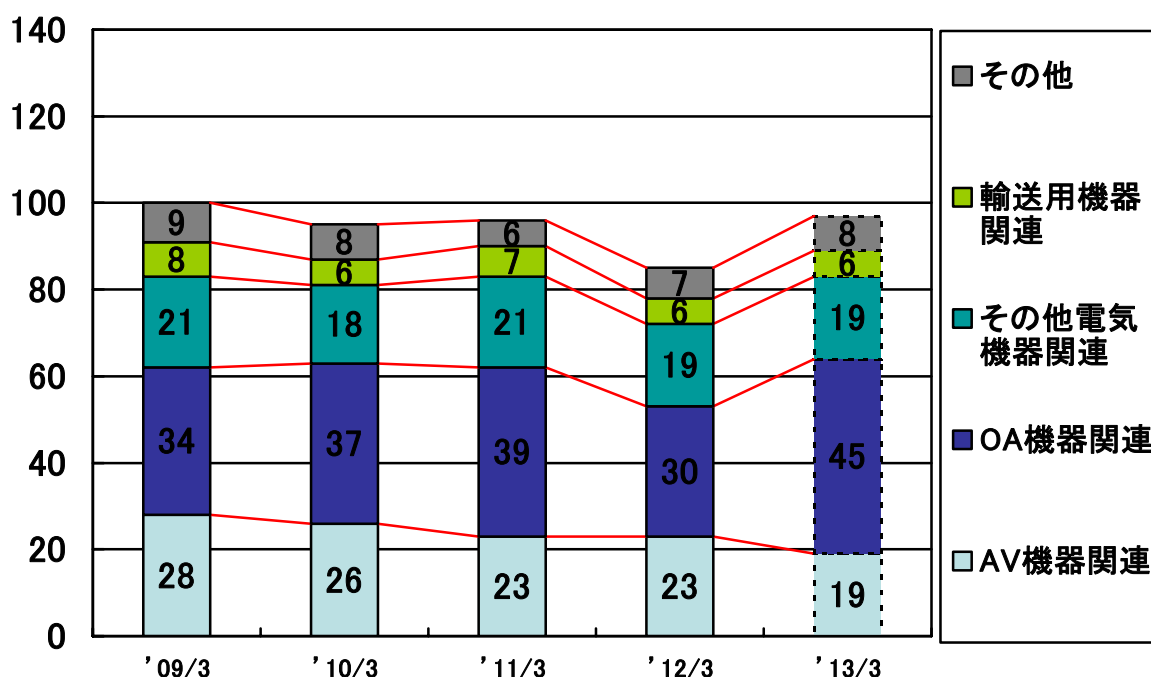


- ・医療分野につきましては医療機器メーカー、専門商社等から継続受注を獲得しておりますが、大型案件には至っておりません。今後とも営業活動に注力し、受注の獲得を目指してまいります。
- ・非接触ICカード用の「きせかえシート」及び「3D／レンチキュラー」等、バラエティーグッズとして販促に取り組んでいるものの、現状、受注は伸び悩んでおりますので、引き続き営業活動を強化して拡販に取り組んでまいります。

◎ 平成 25 年 3 月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



当社グループの今後の取組みといたしましては、既述の長期経営戦略を基本としつつ、加えてローコスト体制の確立により、一段と経営効率重視の会社運営を目指してまいります。

中国展開におきましては、燦光電子（深圳）有限公司を中国における製造拠点として生産能力の強化と技術力の向上を図り、収益の拡大を目指してまいります。

また、国内市場においては、今後とも国内電機メーカーの海外生産シフトは続き、市場の縮小が予想されますが、生産面においては、市場規模に見合う製造工場の再編により収益基盤を確立し、また営業面においては、当面タッチパネル関連製品を収益の柱とし、この分野へ注力することで収益の拡大を目指してまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高については、当初の予想通り推移しておりますが、上期に実施した希望退職に伴う希望退職割増金 137 百万円や投資有価証券評価損 51 百万円の計上がありましたので、上期の実績を踏まえ、通期では連結売上高 9,676 百万円、経常利益 12 百万円、当期純損失 300 百万円を見込んでおります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上

以下の様に本レポートの訂正を行っております。

2013年12月11日 初版

2013年11月29日 訂正

正誤表

正	誤																
<p>6 ページ目</p> <p>Ⅱ.平成 25 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要</p> <p>◎キャッシュ・フロー計算書の概要 (連結)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">12/9 第 2 四半期 (累計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">△969</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">△20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">△45</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">7</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">△1,027</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2,833</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1,805</td> </tr> </tbody> </table>	12/9 第 2 四半期 (累計)	△969	△20	△45	7	△1,027	2,833	1,805	<p>6 ページ目</p> <p>Ⅱ.平成 25 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要</p> <p>◎キャッシュ・フロー計算書の概要 (連結)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">12/9 期第 2 四半期 (累計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">△966</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">△20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">△45</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">7</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">△1,027</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2,833</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1,805</td> </tr> </tbody> </table>	12/9 期第 2 四半期 (累計)	△966	△20	△45	7	△1,027	2,833	1,805
12/9 第 2 四半期 (累計)																	
△969																	
△20																	
△45																	
7																	
△1,027																	
2,833																	
1,805																	
12/9 期第 2 四半期 (累計)																	
△966																	
△20																	
△45																	
7																	
△1,027																	
2,833																	
1,805																	
<p>○営業活動によるキャッシュ・フロー</p> <p>営業活動の結果使用した資金は<u>969</u>百万円</p>	<p>○営業活動によるキャッシュ・フロー</p> <p>営業活動の結果使用した資金は<u>966</u>百万円</p>																